ヘルパー日誌 (5)

きいてください　私たちの仕事のこと

石川・やすらぎ福祉会
ヘルパーステーションやすらぎ　川上範子

事例

私たちが日ごろ見聞きしていること

当ステーションは九九年、金沢市の西南部にある特養ホームに併設されました。利用者一人ひとりのその人らしさを大切に、安心して住み続けられるまちづくりを目指し、毎日一五人のヘルパーが地域に出ています。訪問で見聞きすることは考えさせられることばかり。そのいくつかを聞いてください。

●Aさんは最近病状の進行で体が思うように動きません。だけどいつも明るい笑顔です。

「朝早くから悪いね。見て、お流しむたむたねん。食べるだけ食べたけど片付けられんかった」そういいながら体が傾いてくるAさんをヘルパーがあわてて支えます。「何でこんな病気になったんかね。きっと神様は私が耐えられると思ってこの病気をくれたんやわ」今度は床に落ちたゴミを拾おうと手を伸ばし、体が床に倒れかかったところを引き戻されます。

いつも一生懸命なAさん。私もいつも笑顔でと思うけど、Aさんには勝てない気がします。病に向かう姿勢、他を思いやる心。出会いに感謝です。

●Bさんはまだ五〇代。「ヘルパーさんの仕事は大変ね。でもヘルパーさんに来てもらう人より、ヘルパーとして働いている人のほうがずっと幸せよ」この言葉に私はショックを受けました。

今、ヘルパーを利用している人の中で、自分から望んで利用している人よりも病気や障害のためにやむを得ず、我慢してサービスを頼んでいる人のほうが多いのではないのでしょうか。「望んでしてもらうこと」と「望んではいないけれど、どうしても、してもらわなければならない立場」の違い。そのことを私たちは常に心に刻んで、利用者さんに接しなければと思いました。

●「あんたらが来てくれるから、こうして家で暮らせるんや」と、要支援のCさん。いつもヘルパーの訪問を待っておられます。独居のため丸一日誰とも話さないこともあるそうです。

腰痛で掃除機は持てませんが、はたきをかけたりモップがけをしたりと、いつも一緒に動いていたCさん、最近元気がありません。「鼻くそほどの年金から引かれることばかり増えた。先のことを考えると、はようあっちの世界へ行きたくなるわ。頭はだんだんあんぽんたんになってくるし。ほーかといって上のほうの人は悪いことばっかりして、どんねんとね…どう思う?」。訪問時間の半分は社会情勢の話題です。

「一人でいると、うつうつとしてくる。寂しいもんやよ。一人は…」

当ステーションの四月利用者六六人中二九人（約四四%）が一人で暮らしておられます。

◆

後期高齢者医療制度、来年の介護報酬改定など、ますます強められようとする給付制限と負担増。こんな時だからこそ、利用者と同じ目線で、現場からの声を発信し続けたいと思います。

〝介護ウエーブ〟起こします！ヘルパーも働き続けたい！

全日本民医連は介護保険の改善を求める署名運動を始めています。皆さんも協力してください！

「福祉労働者の仕事をもっと評価して」東京の集会でアピールを読んだやすらぎホームの仲間

ほっと介護 ⑦⑧